

年金種別で、幸福度は2割以上の格差

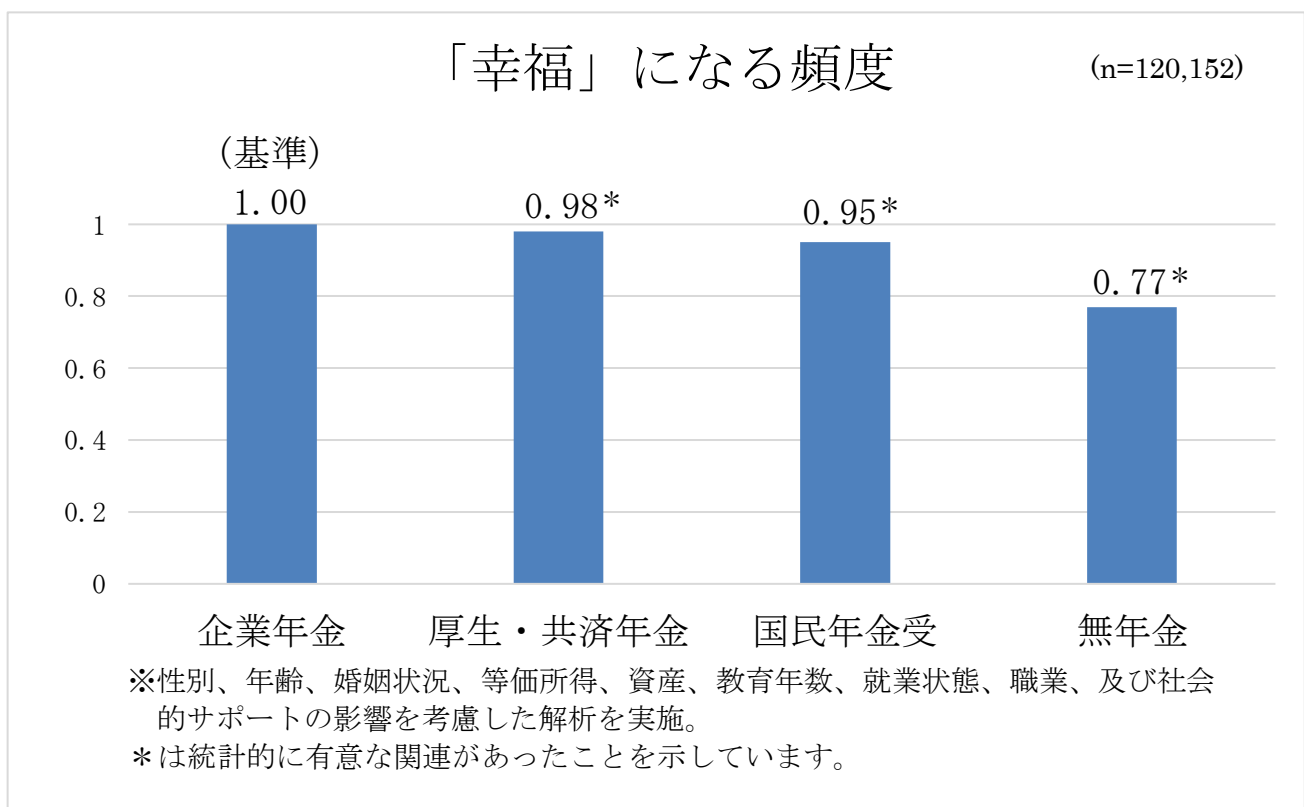
日本では、高齢者の収入源の約7割が年金で支えられています。しかも、平均年金月額、1階部分の国民年金は約5万5千円、2階部分の厚生年金・共済年金は約15万円程度、3階部分の企業年金の受給者はさらに上乘せの年金を受給でき、年金種別は老後の経済格差と密接な関係があります。

しかし、これまで、老後の低収入や低資産と幸福度との関連は研究されてきましたが、年金種別と幸福度との関連は、ほとんど研究されてきませんでした。そこで本研究では、120,152名の高齢者を対象に、年金種別と幸福度との関連を分析しました。

分析の結果、年金種別は幸福度と関連がみられること、とりわけ、無年金の場合、幸福度が特に低いことが明らかになりました。

幸福社会を実現するという点からも、無年金・低年金の解消は、重要な年金・社会保障課題であると考えられます。

お問合せ先： 京都大学 大学院医学研究科 医療経済学分野 佐々木一郎 sasaki_c8@yahoo.co.jp



■背景

これまでの研究では、老後の低収入や低資産が低い幸福度と関連することは分かっていました。しかし、老後収入源の約7割を支える年金が、幸福度とどのように関連しているのかは、研究の光が十分に当てられてきませんでした。平均年金月額、1階部分の国民年金は約5万5千円、2階部分の厚生年金・共済年金は約15万円程度、3階部分の企業年金の受給者はさらに上乘せの年金を受給でき、年金種別は老後の経済格差を反映します。そこで本研究では、老後の年金種別と幸福度との関連を分析しました。

■対象と方法

本研究は、2013年に実施されたJAGES(Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究)の一時点の調査データを分析した横断的研究です。JAGES2013は、日本全国の30自治体において、要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者を対象に、主に身体、心理、社会的な要因について調査を行いました。193,694人に調査票を郵送し、回収されたサンプル数は、137,736です(回答率71.1%)。このうち、年齢、性別、年金種別、幸福度について、欠損値のあるサンプルを除外し、120,152サンプルを分析に使用しました。

目的変数の幸福度は、「たいへん幸せ」を10点、「幸せでない」を1点として、「あなたは、現在どの程度幸せですか」とたずねた調査項目において、幸福度得点の平均に関する先行調査を参考にして、カットオフ値を7点に設定しました。7点以上の人々を幸福な人々とし、1~6点を回答した人々を幸福ではない人々として分類しました。

説明変数の年金種別は、無年金、国民年金、厚生年金・共済年金、企業年金の4つに分類しました。性別、年齢、婚姻状況、等価所得、資産、教育年数、就業状態などの人口統計学的要因や社会経済的要因等の影響を調整した上で、年金種別と幸福度との関連について、ポワソン回帰モデルを用いて、幸福者である率の比を算出しました。

■結果

分析対象者120,152名のうち、無年金、国民年金、厚生年金・共済年金、企業年金の割合は、それぞれ、1.4%、29.4%、58.3%、10.9%でした。幸福度得点が7点以上の幸福者の割合は、無年金、国民年金、厚生年金・共済年金、企業年金について、それぞれ、43.0%、66.5%、67.8%、72.7%でした。人口統計学的要因や社会経済的要因等の影響を考慮して分析した結果、幸福者である率の比(Prevalence ratios)は、平均年金受給額が最も高い企業年金の受給者と比較して、無年金者は0.77倍、低年金の国民年金受給者は0.95倍、厚生年金・共済年金受給者は0.98倍、低いことが示されました。

■結論

平均年金受給額が最も高い企業年金の受給者は、幸福度が高いことが示されました。

■本研究の意義

年金種別は、社会経済的要因等を調整してもなお、幸福度と関連しており、とりわけ、無年金のケースで、幸福度が低いことが示されました。無年金や低年金を解消すること、豊かな年金を得ることは、幸福度の高い社会を実現するうえでも重要と考えられます。

■発表論文

Sasaki I, Kondo K, Kondo N, Aida J, Ichikawa H, Kusumi T, Sueishi N, Imanaka Y: Are pension types associated with happiness in Japanese older people?: JAGES Cross-sectional study. PLOS ONE 2018 May 21; 13(5):e0197423. doi: 10.1371/journal.pone.0197423.

■謝辞

本研究は、日本老年学的評価研究(the Japan Gerontological Evaluation Study, JAGES)プロジェクトのデータを使用しました。記して感謝いたします。